

2022年10月改訂(第4版)  
貯法 気密容器、室温保存

動物用医薬品

セフェム系抗生物質製剤  
要指示医薬品 指定医薬品

承認指令書 番号	75 300	元動薬第3308号 元動薬第3309号
販売開始	2019年3月	



# セファセブチン<sup>®</sup>錠75 セファセブチン<sup>®</sup>錠300

犬用セファレキシン錠

## 【本質の説明又は製造方法】

本剤は、セフェム系抗生物質セファレキシン一水和物を有効成分とする動物用医薬品です。  
セファレキシンは、ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属等のグラム陽性菌及び大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属等のグラム陰性菌に対して、広い抗菌スペクトルを有します。また、本剤は、両面に割線のある錠剤で、嗜好性を高める素材を配合しています。

## 【成分及び分量】

品 名	含量 (1錠中)
セファセブチン <sup>®</sup> 錠75	1錠(212.5mg)中に、セファレキシン一水和物を78.9mg(セファレキシンとして75mg(力価))含有する。
セファセブチン <sup>®</sup> 錠300	1錠(850mg)中に、セファレキシン一水和物を316mg(セファレキシンとして300mg(力価))含有する。

## 【効能又は効果】

有効菌種：本剤感受性のブドウ球菌  
適応症：犬：細菌性皮膚感染症

## 【用法及び用量】

セファセブチン<sup>®</sup>錠75  
1回体重1kgあたりセファレキシンとして15mg(力価)(体重2.5kgあたり1/2錠)を1日2回7日間経口投与する。  
ただし、2回の投与間隔は最低10時間とする。

セファセブチン<sup>®</sup>錠300  
1回体重1kgあたりセファレキシンとして15mg(力価)(体重5kgあたり1/4錠)を1日2回7日間経口投与する。  
ただし、2回の投与間隔は最低10時間とする。

## 【使用上の注意】

(基本的事項)

### 1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- ・本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- ・本剤は効能・効果において定められた適応症の治療にのみ使用すること。
- ・本剤は定められた用法・用量を厳守すること。なお、用法・用量に定められた期間以内の投与であってもそれを反復する投与は避けること。
- ・本剤の使用に当たっては、治療上必要な最小限の期間の投与に止めること。
- ・ウサギ、モルモット、ハムスター、スナネズミには使用しないこと。

(使用者に対する注意)

- ・使用上の注意を守り、本剤を取り扱うこと。
- ・本剤の成分又はセフェム系抗生物質並びにペニシリン系抗生物質に対する過敏症を有する人、若しくは、これら製剤の取り扱いを控えるように言われている人は本剤を取り扱わないこと。

(取り扱い及び廃棄に関する事項)

- ・食品と区分し、小児の手の届かないところに保管すること。

- ・本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。
- ・誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れ替えないこと。
- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。

## 2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ・誤って本剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。
- ・本剤を取り扱った際、皮膚の発赤などの過敏症の症状が現れたときは、医師の診察を受けること。

(犬に関する注意)

- ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(専門的事項)

## 1. 禁忌

- ・本剤の成分又はセフェム系抗生物質並びにペニシリン系抗生物質に対する過敏症を有する犬には投与しないこと。
- ・セファロスポリン及びペニシリンに耐性である症例では使用しないこと。

## 2. 対象動物の使用制限等

- ・体重1kg未満の子犬の治療に本剤を使用しないこと。
- ・腎機能に高度な障害がある場合には、本剤の体内残留時間が長くなる可能性があるため投与量を減らすなど慎重に投与すること。腎毒性が判明している抗菌剤との同時投与は避けること。
- ・妊娠及び授乳中の雌犬における本剤の安全性は未確認であるため、獣医師の判断に基づいて使用すること。

## 3. 副作用

- ・本剤の投与により、まれに悪心、嘔吐、下痢、食欲不振、軟便がみられることがある。
- ・本剤の投与により、まれに過敏症を発症する可能性がある。このような過敏症がある場合は、速やかに治療を中止すること。

## 4. 相互作用

- ・有効性を確保するため、本剤と静菌性抗生物質との併用は避けること。第一世代セファロスポリンとアミノグリコシド系抗生物質や利尿剤(フロセミドなど)との同時使用により、腎毒性リスクが増大する可能性がある。

## 5. その他の注意

- ・尿糖検査では偽陽性を呈する事があるので注意すること。

## 【包装】

セファセブチン<sup>®</sup>錠75 100錠(10錠×10シート)  
セファセブチン<sup>®</sup>錠300 140錠(10錠×14シート)

## 【製品情報お問い合わせ先】

日本全薬工業株式会社 CA事業部  
〒963-0196 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1  
TEL 024-945-2332 受付時間 9:00～17:00(土日祝日・弊社休業日を除く)

## 【販売元】

 **日本全薬工業株式会社**  
ZENOAG 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

## 【製造販売元(輸入発売元)】

**ベトキノールジャパン株式会社**  
東京都港区芝大門1丁目1-23

## 【製造元】

 **ベトキノール**(フランス)

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発症に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所(<http://www.maff.go.jp/nyakutou/fukusayo/sousa/index.html>)にも報告をお願いします。